

この写真は田口哲氏より提供頂いた写真です。

県域 絶滅危惧Ⅱ類



環境省レッドリスト(2018) 準絶滅危惧(N_T)

九頭竜川水系は全国的にも有名なサクラマス産地で、多くの釣り人が集まる。全長:約65cm

サケ科 サケ属

【全長】70cm

サクラマス (降海型)

学名: *Oncorhynchus masou masou*

分布域

北海道と山口県以北の本州日本海側・神奈川県以北の太平洋側・九州の一部に分布する。

生息域

河川では中流域上部～上流域。



スモルト化したサクラマス。2月。北潟湖産

雪解けの増水が治まりかけた頃、孵化した稚魚が産卵床から抜け出し、約1年間の淡水生活(ヤマメ)が始まる。その年は冬まで河川で越冬し、翌年の初春、雪解けが始まると海に下る。この頃には体色は青銀白色に変化しパーマークは薄くなる(スモルト化)。降海後、約1年間海で過ごし全長45～70cmにまで成長する。春頃から河川への遡上が始まる。この時点では未成熟で産卵期(福井県では10～11月頃)まで河川で餌も捕らずに成熟するのを待つ。産卵は河川の中流域上部～上流域の砂礫底部に産卵床を掘り産卵する。産卵には同種のヤマメ(河川残留型)もその産卵に加わる。サクラマスは産卵後に、その一生を終える。

在来種

陸封型

※ 九頭竜川水系のサクラマスの遡上は全国的にも有名で、鳴鹿大堰の直下で多くのサクラマスの遡上を見ることが出来る。※サケの遡上もほぼ同時期に行われる。